

## 会 議 録 (要旨)

会 議 名	第12回瑞穂町行政評価委員会
開 催 日 時	平成27年7月10日(金) 午前9時から午前10時40分まで
開 催 場 所	町民会館第2会議室
出 席 者	出席者：村山委員長、小山副委員長、池田委員、池谷委員、伊藤委員、木村委員、中村委員 説明員 【後期高齢者医療事業】：小野住民課長、井上国保係長 【学力向上事業】：加藤指導課長、奥泉指導係長 【図書館施設の充実】：宮坂図書館長、小山図書係長 事務局：村山企画課長、杉本企画係長、企画係榎本
配 布 資 料	事前配布資料 ・平成26年度事務事業評価シート 【後期高齢者医療事業】 【学力向上事業】 ・平成26年度全国学力・学習状況調査の瑞穂町の結果、分析及び方策等をお知らせします ・平成26年度全国学力・学習状況調査の結果（児童・生徒質問紙調査）について ・平成26年度補習教室実施計画及び成果と課題 ・平成26年度英語検定、漢字検定 ・平成27年度 学力向上事業（指導課） ・「瑞穂町フューチャースクール」 ・瑞穂町教育委員会「ストップ22」キャンペーン 【図書館施設の充実】 ・行政評価委員会委員用補助資料（図書館施設の充実） 当日配布資料 ・後期高齢者医療制度のしくみ ・東京いきいき通信
議 題	1 開 会 2 議 題 （1）平成26年度事務事業評価シートの外部評価について ①【後期高齢者医療事業】 ②【学力向上事業】 ③【図書館施設の充実】 3 その他
傍 聴 者	なし

<p><b>審議経過</b></p> <p>(主な意見等を原則として発言順に記載。同一内容は一つにまとめた。)</p>	<p>1 開会</p> <p>※村山委員長から会議公開についての説明が行われ、会議が進められた。</p> <p>2 議題</p> <p>(1) 平成26年度事務事業評価シートの外部評価について (村山企画課長)</p> <p>※審査に入る前に、事務局より資料の確認及び事務事業外部評価の目的について説明があった。</p> <p>①【後期高齢者医療事業】</p> <p>※説明員から平成26年度事務事業評価シート【後期高齢者医療事業】に基づき、事業概要の説明があった。</p> <p>○事前意見及び質問並びに説明員の回答 (小山委員)</p> <p>日本人の平均寿命は(男 80.21 歳＝世界 4 位、女 86.61 歳＝世界 1 位)だが、健康年齢平均は、(男 71.19 歳、女 74.21 歳＝2013 年)である。</p> <p>10 年後には団塊の世代が後期高齢者となる。少しでも保険料負担を軽減するため健康年齢を延ばす事も必要かと思われる。町でもハイキング・ウォーキング等の健康推進事業や健康診断など既に実施しているが、食生活の改善など啓蒙を含めた一層の推進が必要と思われるが将来的展望は。</p> <p>(小野住民課長)</p> <p>後期高齢者医療及び町として、広報みずほに毎月連載されている「保健師からのちょっと耳寄りな話」を掲載し啓蒙を実施している。</p> <p>事業としては、後期高齢者健康増進事業として「健康ハイキング」、「アロマと足つぼ入門講座」を実施している。</p> <p>社会教育課及び高齢課、健康課でも事業を実施している。年に2度関連する4課で調整会議を実施している。</p> <p>建設課では、公園に57基の健康遊具を設置している。</p> <p>(池谷委員)</p> <p>今後の改善すべき点にジェネリック医薬品の啓発とあるが、ジェネリック医薬品にも問題があるときくが、医師とよく相談してから変更するような啓発になっているのか。</p> <p>(小野住民課長)</p> <p>処方箋には、ジェネリック医薬品は使用しない方がよいと医師が判断した場合には、ジェネリックは不可となる記入欄があるので、医師がジェネリックでは、不可と判断すると切り替えはできない。</p> <p>また、院内処方の場合、外部の調剤でジェネリック医薬品にした場合に、金額の差が少なくなることがある。</p> <p>(池谷委員)</p> <p>ジェネリック医薬品の使用量は、増加しているのか。金額にしたらど</p>
---	---

れくらいの医療費削減に結びついているのか。過去3年ほどの推移を教えてください。

(小野住民課長)

広域連合では、平成25年度からジェネリック医薬品の差額通知を始めている。

瑞穂町では、平成25年度9月診療分では、87,000円の効果額、10月診療分では、101,000円の効果額があった。

平成26年度では、9月診療分では、360,000円の効果額、10月医療分では290,000円の効果額があった。

東京都全体では、1か月1億1,700万円の効果額があった。

(池谷委員)

後期高齢者対象者は現在何人か。未納の0.55%とは何人になるか。また未納額はいくらであるか。

(小野住民課長)

被保険者は平成27年5月末現在で3,414人である。

滞納者は41人である。

未納額は1,865,000円である。

(池谷委員)

過年度滞納者には、課徴金をとっているのか。

(小野住民課長)

瑞穂町後期高齢者医療に関する条例で定めてあるため、延滞金は頂いている。

(池谷委員)

滞納者に対する訪問、電話督促に費やしている工数はどれくらいかけているのか。これをしなければ収納率はどれだけ低下するのか。

(小野住民課長)

偶数月に、未納のある方は収納推進委員会の方に訪問してもらおう。高齢者施設の方は、職員が電話及び訪問を行う。

収納率は99.45%である。

収納率の低下に関しては、税の公平性を考えると、督促をしないわけにはいかないのでは、数値の出しようがない。

(池谷委員)

外部委託など効率性を重視した新たな事業展開への創意工夫が必要とあるが平成27年度計画には入っているのか。

(小野住民課長)

平成27年度からジェネリック医薬品使用促進事業を年1回の通知を2回にする。

柔道整復師、鍼、灸、マッサージの療養費適正化事業の拡大をする。

(池谷委員)

広域連合負担金の伸び率を5.5%に見込んだ根拠は何か。広域連合

負担金の決算額が平成25年度から平成26年度で12.5%上昇しているが、これはなぜか。

(小野住民課長)

シート3ページ決算額の、平成22年度から平成25年度の数値を平均値として計算した。

医療に掛かった費用に対する負担金の上昇及び保険料等に関する負担金の上昇と考える。

(池田委員)

未収納者の割合(人数/対象数)及び年金から引き落とせないのか。

(小野住民課長)

未収納者の割合は41人/3,414人=1.2%である。

年金から引き落とせない方は47.2%である。ただし、47.2%の中には、本人が口座振替を選択している方も含まれている。

(池田委員)

年金額から収納する場合の基準はどうなっているか。夫婦で生活している場合、どちらから収納するのか。(個別、一括等どんな方法があるか。)

(小野住民課長)

基準として

公的年金の受給額が年額18万円未満の方

介護保険料と後期高齢者医療保険料を合わせた額が、公的年金の1回当たりの年金受給額の1/2を超える場合

年度途中で他の区市町村から転入した方

年度の途中で75歳になられた方

夫婦で生活している場合の収納は個別である。

収納方法は、納付書及び口座振替等がある。

(池田委員)

「高齢者へ制度の趣旨をわかりやすく周知」とあるが、具体的にはどういう方法をとっているか。

(小野住民課長)

各通知の字の大きさを見やすくしている。

○質問及び意見、説明員の回答

(中村委員)

後期高齢者の医療は年々増えていることは承知しているが、これからは抑制していく考えも持たなくてはいけない。後期高齢者の方でも、医者や薬の世話にならない健康的な方がいる、そのような方にはインセンティブを与えてやるのが良いと思う。薬を貰うときに、毎回、同様の薬であるのならば、薬の説明書は毎回配布しないで最初の1回だけにして医療費の抑制を図った方が良いと思う。

(池谷委員)

督促状は60人位の方に送っているが、その方たちに口座振り込みにしていただければ督促状を送る人が減ると思う。口座振替に振り替えてもらうよう推奨した方が良いと思う。

②【学力向上事業】

※説明員から平成26年度事務事業評価シート【学力向上事業】に基づき、事業概要の説明があった。

○事前意見及び質問並びに説明員の回答

(池谷委員)

瑞穂町は、なぜ学力が全国平均から大幅に劣るのか真の原因は。

(加藤指導課長)

小学校、中学校とも学習に対する関心や意欲が低い。これは瑞穂町全体にも当てはまる。

(池谷委員)

事前資料の中で、色々なアンケートを集計しているものがあるが、他の項目はなかったのか。

(加藤指導課長)

全部で60項目以上のアンケートがあったので、様々な質問結果を記載することはできない。学力向上に関しての、基本的項目を記載した。

(池谷委員)

アンケートの結果を、掘り下げていかないと真の原因には突き当たらないので、ちゃんとした対策が出てこないのでは。

(加藤指導課長)

教育委員会として東京都全体、多摩地区全体で定期的に集まり各地区の取り組み状況を情報交換している。

(中村委員)

学力向上事業は、何が良かったのかはすぐに結論は出ない。対象が広範囲すぎて外部評価の対象にはならないのでは。

(伊藤委員)

事業の選び方もあるが、学力向上事業を記載しているシートは記載内容が適切ではないのでは。

(村山企画課長)

行政の仕事は、塾とは違い企業目標を持つものではなく、学習意欲を持たせるにはどうするのが良いのか等、学校では様々なことが起こっている事などを結びつけてシートに示すことが出来ている。

結果として数値に表すことは、行政の仕事としては難しいことである。

(伊藤委員)

シートを作成させる中で、「数値等を表すように作成すること」と指示をすればよい。

(中村委員)

教育行政が出来る範囲は限定されると思う。サポート的な範囲で予算を付けて支援をしていく必要がある。多様性を認めた中で支援をする必要がある。

(加藤指導課長)

指導課の基本的方針は、学力は点数ではなく、子どもが将来に色々な事を学んで行って、自分として自分らしく生きていけるかの力を付けてあげられるかが教育の目的である。

学力の成果は、数値としてはなかなか表せない。

将来子どもたちが、他の地区の子どもたちと対等に競争できるように、教育委員会も学校も指導している。

子どもも保護者も学習に目を向けてくれるよう色々施策を考えている。その中で、今年度は中学校でフューチャースクール（町の学習塾と連携をして、学校教育と切り離し、夏季休業中、冬季休業中、土曜日に参加したい子どもたちを呼んで勉強会を実施）を実施する。

中学生約950人中、約220人の参加で、全体の25%位である。

(小山委員)

フューチャースクールの教科は数学と英語のみであるが、国語は含まれないのか。

(加藤指導課長)

本当なら数学、英語、国語の3教科実施したいが、年間に20回の実施で連続ではなく単発の実施のため国語は適切ではないと思い、初年度は実施しなかった。

子どもたちの様子を見ながら、今後検討していきたい。

(小山委員)

このような質問をしたのは、日本人は活字離れをしているためである。

(加藤指導課長)

国語に関しては、小学校、中学校とも読書に力を入れている。

(村山委員長)

中学2年で英検を実施とあるが何級を目標に実施するのか。

(加藤指導課長)

英検4級を目標に実施している。

### ③【図書館施設の充実】

※説明員から平成26年度事務事業評価シート【図書館施設の充実】に基づき、事業概要の説明があった。

○事前意見及び質問並びに説明員の回答

(小山委員)

本を借りる人の年代別人数を教えてください。

(宮坂図書館長)

平成26年度実績で、一番多いのが60歳以上の11,112人で34.4%である。次に50歳～59歳が4,861人で15.1%となっている。

(池田委員)

現時点で図書館をどのように運営しようとしているのか。

「空きスペースを有効利用」

「民間活力の導入は必要であるか」・「外部委託など効率性を重視した新たな事業展開への創意工夫が必要である」とのことだが、具体的にどのようにしようと考えているのか。

(宮坂図書館長)

郷土資料館移転後の瑞穂町図書館3階をどう活用するかを検討を重ねた結果、耐震診断に問題がなかったため、閉架書庫を3階に設置することとし、エレベーターが無い中で、お客様には上にあがる苦労はさせないという結論に達した。

「民間活力の導入について」は読み聞かせのボランティアや子育てサークルの協力を得て、キッズコーナーを活性化させることができれば、お母さんと小さな子供という利用者獲得に繋がるものと考えている。

「外部委託など、効率性を重視した」とあるが、これについては、民間業者による業務委託や、指定管理者制度の導入の検討を示している。現在、他自治体の図書館でも一部、指定管理者制度を導入することで、開館時間の延長等サービスの向上策を図っている。公が運営する場合と、民間が運営する場合のメリット、デメリットなど、様々な事案が報告されているので、これらについても、日々情報を収集し、分析を行っているところである。

(池谷委員)

3階スペースの有効活用とあるが、ニーズをしっかりと把握することが重要ではないかと思う。

(宮坂図書館長)

まさにその通りであり、やみくもに広げればいいのか、こんなものが置ければ良いとかでは、その場しのぎになってしまう。今回の構想は約3年かけて検討している。その途中、利用者へのアンケートや、子育てサークルへの聞き取り、読書関連団体への調査のほか、図書館協議会内でも十分に検討いただき、今回の館内改修案に繋がっている。まずは、キッズコーナー設置による若年層の利用者拡大、そして、DVD、CD視聴機設置による、新たな利用者の開拓、閲覧席増設による、高齢者や学生の居場所づくりなど、様々な効果が期待されている。

(小山委員) (池田委員)

箱根ヶ崎駅西土地区画整理事業の進ちょくに伴う役場機能を備えた図書館の整備検討は、何年後を目途に計画しているのか。

(宮坂図書館長)

行政評価委員の皆さんもご存知の通り、役場が耐震診断結果により建て替えが必要となっており、多額の費用が必要となっている。また、福祉や教育など、貴重な税金をバランスよく効率的に執行していかなければならない。まずは町全体のバランスを見ながら短期、中期、長期的な対応の検討となる。よって現況としては、駅前図書室とはどういうものか、どんな部屋があればよいのか等の情報収集を行っているところである。

現在、第4次長期総合計画の後期計画を策定中であり、この中で、今後の方向性を見出していくことになると考えている。

○質問及び説明員の回答

(池田委員)

図書館の場所は、継続して使用していくのか。

(村山企画課長)

まちづくり全般のことなので企画課で回答する。

事業については、第4次長期総合計画にのっとって進めている。

第4次長期総合計画を作成したときは、「箱根ヶ崎駅西土地地区画整理事業の進捗に伴う役場機能を備えた図書館の整備検討」と記載をしたが、その後、東日本大震災が発生し大きな変動があり、公共施設の耐震問題の話が取り上げられ、役場の建て替えの話になった。

確かに、今の場所は不便である話は聞いているが、現在は、箱根ヶ崎駅西口図書館整備は検討中である。

(池谷委員)

何でも1か所に集中させるのではなく、遠く離れた地区の方は逆に使用しづらいため、分散してほしい。

(村山企画課長)

今までの話は、図書館を全部箱根ヶ崎駅西口に移動するわけではなく、分室図書室のようなものを考えている。

(宮坂図書館長)

各小学校地区に分室を設置している、各地区の図書館を盛り上げ読書意欲を高めていきたい。

(池谷委員)

シートの図書貸し出し数の目標値が下がっているが、図書館の利用を増やすのか、貸し出しは下がっているが利便性を良くしていくのか、これからの方向性を考えるべきでは。

(宮坂図書館長)

確かに、貸し出し件数は下がっているが、下がる率は他市町村に比べると微減で済んでいる状態である。東京都の図書館で貸し出し数が増えているのは、町田市と武蔵野市だけである。



今回のシートの他に「貸し出し体制の充実」があり、貸し出しについての検討は、そちらのシートに記載している。

今、考えていることは0歳から12歳までの子どもを対象にした、保護者等に貸し出し体制を充実させたいと考えている。

### 3 その他

(池谷委員)

今回の外部評価は、2日間で6事業実施したが、今回の行政評価委員会の内容を他の事業にも展開してほしい。事務局の考えはどうか。

(村山企画課長)

事務事業評価シートについての意見も、行政評価委員の皆さんから頂いた。

次年度の事務事業評価シートの作成及びヒアリングを開催する中で参考にしたいと思っている。

(池谷委員)

今回の行政評価委員会で、当日に資料の配布があったので、事前に資料配布があれば、事前質問の内容等が変わったと思う。

最初に事務局から、行政評価委員への説明等があったが割愛しても良いと思う。

(村山企画課長)

当日配布資料は、事前質問を受けた中で、このような資料があれば説明しやすく理解もしやすいと思い、当日の配布になった。

次回からは、担当する課長と調整をしていきたいと思う。

冒頭の説明等は、行政評価委員の皆さんがよろしければ割愛する。

(小山委員)

次回から事前資料に、ページを振ってほしい。

閉会 午前10時40分